

市テスト(佐伯市評価規準診断テスト) 小5・小6・中1・中2・中3

佐伯市では、市内の小学校5年生から中学校3年生までの全児童生徒を対象とし、小学生は平成26年1月9日(木)、10日(金)に、中学生は平成26年1月9日(木)に、市が独自に作成した問題で、「佐伯市評価規準診断テスト」を実施しました。

【実施教科】

小5, 6年・・・国語、社会、算数、理科の4教科
 中1、2、3年・・・国語、社会、数学、理科、英語の5教科

【実施内容】

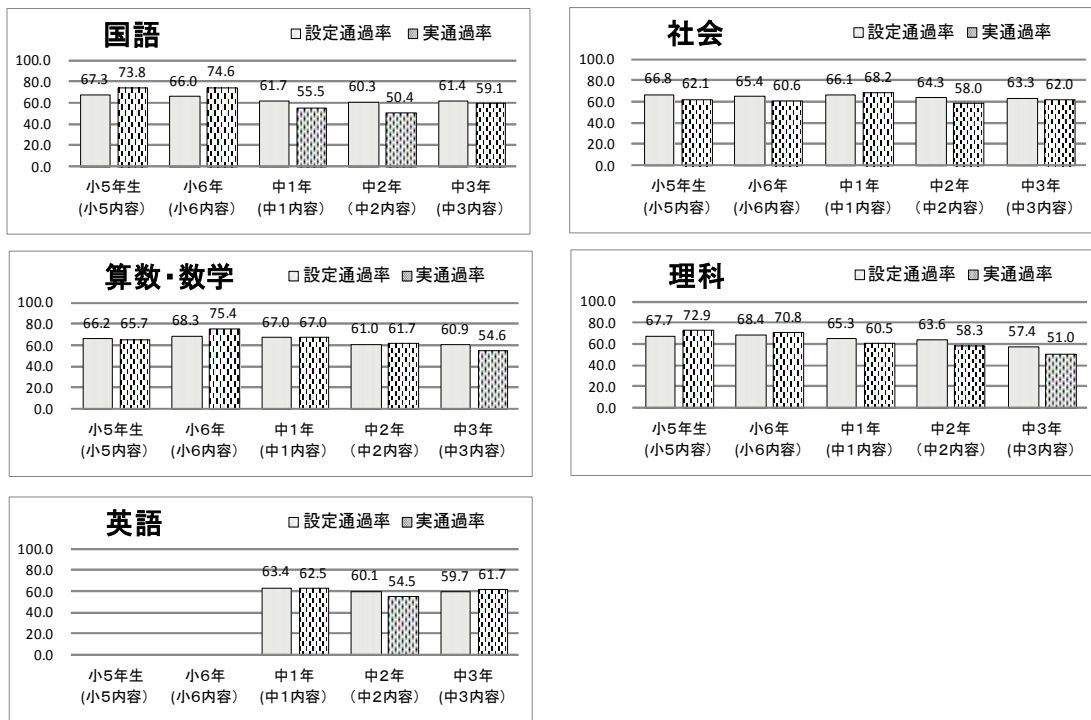
国語、社会、算数・数学、理科、英語の各教科の問題
 生活習慣や学習習慣等に関する生活アンケート調査

【用語解説】

- ※正答率：児童生徒が正答した問題数の割合(%)・・・平均値
- ※達成率：目標値を上回った児童生徒数の割合(%)
- ※目標値：児童生徒に到達してほしい基準。目標とする点数の意味合い。
- ※目標とする達成率：佐伯市では各教科とも80%以上の達成率を目標としている。

1 各教科の全体的な達成度の判断について

各教科の達成度の判断については、「各教科の平均値(通過率の平均)－目標値(設定通過率の平均) ≥ -5 になった場合、達成度は『おおむね良好』とする。」との判断基準を設定した。



<小学校>

学年	教科	設定通過率	実通過率	良好
5年 (小5内容)	国語	67.3	73.8	○
	社会	66.8	62.1	○
	算数	66.2	65.7	○
	理科	67.7	72.9	○
6年 (小6内容)	国語	66.0	74.6	○
	社会	65.4	60.6	○
	算数	68.3	75.4	○
	理科	68.4	70.8	○

※○印がついている教科が「おおむね良好」と判断できる教科

<中学校>

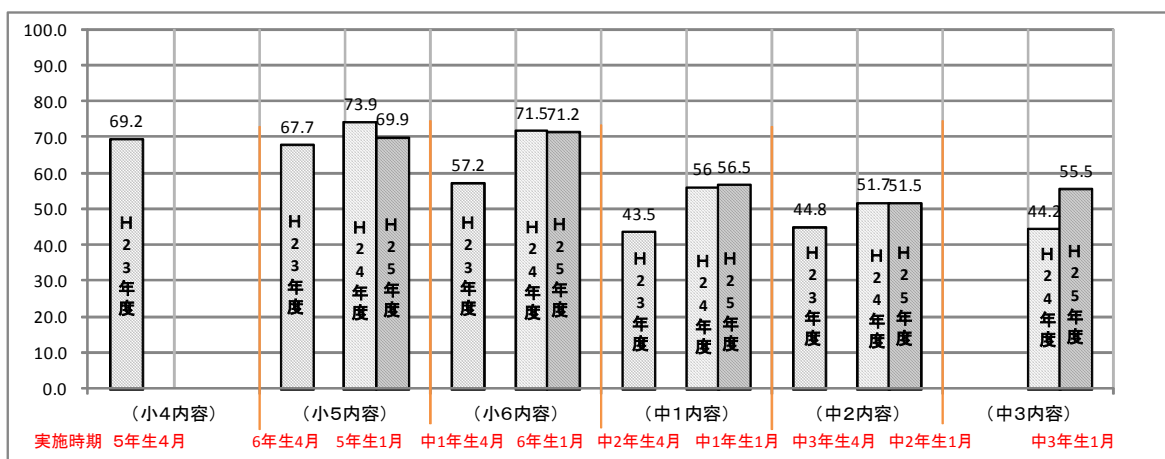
学年	教科	設定通過率	実通過率	良好
1年 (中1内容)	国語	61.7	55.5	
	社会	66.1	68.2	○
	数学	67.0	67.0	○
	理科	65.3	60.5	○
	英語	63.4	62.5	○
2年 (中2内容)	国語	60.3	50.4	
	社会	64.3	58.0	
	数学	61.0	61.7	○
	理科	63.6	58.3	
	英語	60.1	54.5	
3年 (中3内容)	国語	61.4	59.1	○
	社会	63.3	62.0	○
	数学	60.9	54.6	
	理科	57.4	51.0	
	英語	59.7	61.7	○

※○印がついている教科が「おおむね良好」と判断できる教科

2 児童生徒の評価規準（目標値）の達成状況について

各教科の目標値（設定通過率の平均）やその合計に対して、「設定通過率を上回ると考えられる」もしくは「設定通過率と同程度と考えられる」児童生徒の割合が80%以上となった場合、学年における達成の度合いは「評価規準を達成した」とする判断基準を設定した。

- ① 学年別達成度 … 教科合計の目標値（各教科の設定通過率の合計）を「上回る」「同程度」と考えられる児童生徒の割合（%）



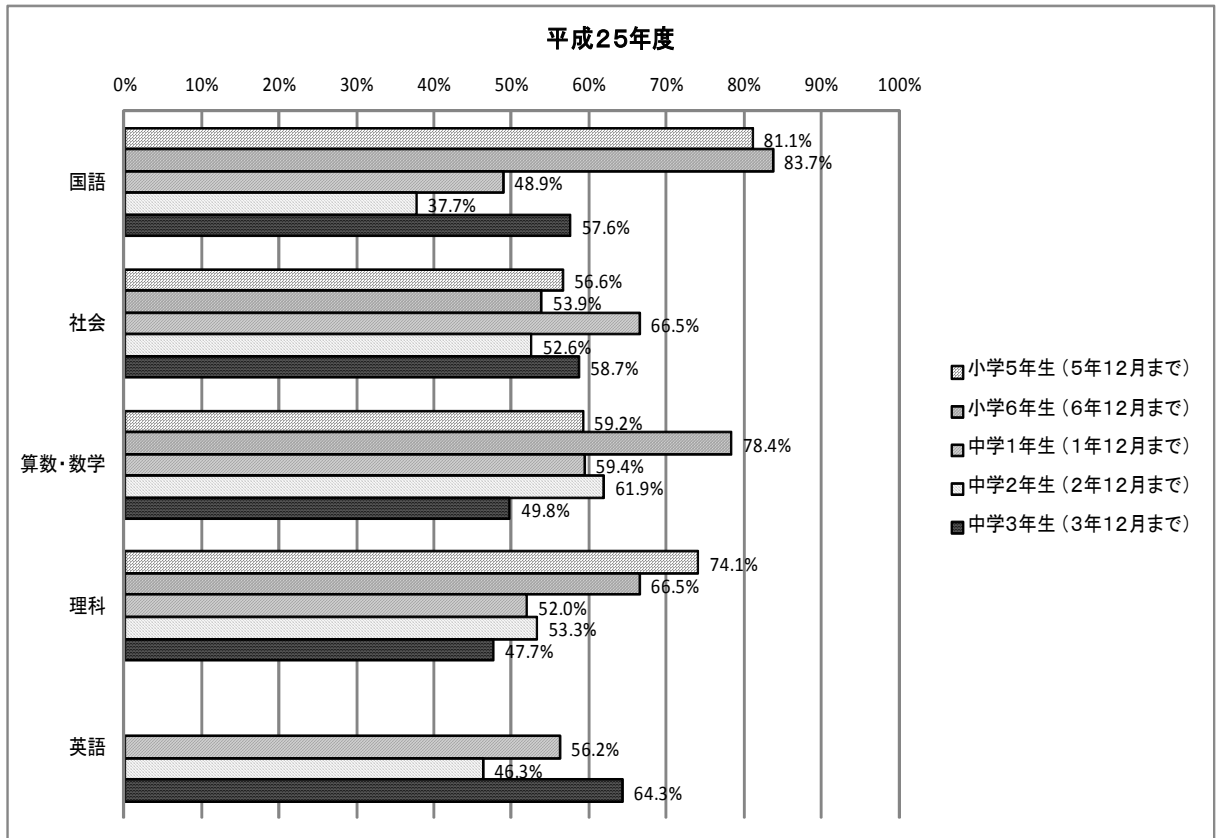
※設定通過率(教科合計)を「上回る」「同程度」と考えられる学年別児童生徒の割合(%)

H23年度まで4月に前学年の通年の学習内容を範囲としたテストを実施。
H24年度からは1月に当該年度の12月までの学習内容を範囲としたテストを実施。
テスト範囲と時期が異なるため直接的な比較は出来ない。

	(小4内容)	(小5内容)	(小6内容)	(中1内容)	(中2内容)	(中3内容)
H25年度		69.9	71.2	56.5	51.5	55.5
H24年度		73.9	71.5	56.0	51.7	44.2

	5年生 (小4内容)	6年生 (小5内容)	1年生 (小6内容)	2年生 (中1内容)	3年生 (中2内容)
H23年度	69.2	67.7	57.2	43.5	44.8

② 教科別達成度 … 各教科の目標値（設定通過率の平均）を「上回る」「同程度」と考えられる教科別児童生徒の割合（％）



※各教科の設定通過率を「上回る」または「同程度」と考えられる児童生徒の割合（％）

年度	教科	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
		(小5内容)	(小6内容)	(中1内容)	(中2内容)	(中3内容)
H25年度	国語	81.1%	83.7%	48.9%	37.7%	57.6%
	社会	56.6%	53.9%	66.5%	52.6%	58.7%
	算数・数学	59.2%	78.4%	59.4%	61.9%	49.8%
	理科	74.1%	66.5%	52.0%	53.3%	47.7%
	英語			56.2%	46.3%	64.3%
H24年度	国語	63.9%	69.3%	50.5%	55.0%	35.9%
	社会	81.0%	73.3%	62.4%	59.6%	41.6%
	算数・数学	63.5%	66.9%	52.6%	61.0%	61.4%
	理科	74.7%	63.6%	49.6%	44.4%	30.8%
	英語			66.8%	39.2%	48.1%

年度	教科	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	中学3年生
		(小4内容)	(小5内容)	(小6内容)	(中1内容)	(中2内容)
H23年度	国語	48.9%	59.1%	41.9%	49.0%	36.8%
	社会	61.5%	63.5%	44.1%	31.4%	17.5%
	算数・数学	82.0%	57.9%	66.4%	53.0%	46.3%
	理科	52.1%	70.5%	65.4%	50.7%	35.6%
	英語				53.1%	61.1%

3 まとめ

昨年度から、当該年度の12月までの学習内容を範囲としてテストを実施した。各教科の実通過率と設定通過率を比較した「各教科の全体的な達成度の判断」については、小学校では昨年同様に、すべての教科において「おおむね良好」となった。

中学校1年では国語を除く4教科（小6時は全教科）で「おおむね良好」となった。中学校2年では数学のみ（中1年時は社会と英語）が、中学校3年では、国語、社会、英語の3教科（中2年時は国語、社会、数学）が、それぞれ「おおむね良好」となった。また、中学校2年の国語では実通過率が設定通過率を10ポイント程度下回った。

なお、社会では「おおむね良好」と判定された学年が多いが、小中学校ともに実通過率が設定通過率を下回った学年が多い。国語や理科では中学校で3学年ともに、実通過率が設定通過率を下回った。

次に、全教科合計の実通過率と設定通過率を比較した「学年別達成度」については、小学校では70%前後の児童が、中学校では概ね50%～55%程度の生徒が各教科の設定通過率の合計（学年の目標値）を「上回る」または「同程度」となった。中学校3年については、昨年の44%から10pほど増加した。

また、各教科の設定通過率を「上回る」か「同程度」と見られる児童生徒の割合を見る「教科別達成度」が80%（市が目標としている数値）を超えた教科は、小学校5、6年の国語のみであり、これに近い値となったものが小6算数、小5理科であった。他方、中学校ではいずれの学年・教科においても80%から遠く、50%を下回る学年・教科も見られる。

例年、各教科では、学年が上がるにつれ、教科の目標値に対する達成度が下がる傾向が見られる。要因として、中学校では、短答式でなく「文章による記述」で解答する問いを増やしていることに加え、理科や社会の問題では、「表とグラフを対応させたり、表やグラフから読み取れることは何かを問う」問題や「複数の資料を組み合わせる」設問を増やしていること。さらに、中3においては設定通過率そのものを65%程度にする等、本テストを始めた平成18年当初に比べ、問題の質が変わり、難易度も上がっていること等が考えられる。求められる力が以前とは変化する中、80%の生徒が設定通過率を超えることを目標とすることを含めて、テストの設計そのものを再度検討する必要性が生じている。これらについては、次年度以降、テストの実施学年や問題内容から検討する中で、再構築することを予定している。そうしたことを考慮してもなお、中学校1年や2年の教科で目標値を通過した生徒が40%台となっている教科・学年については、授業者側の期待や感覚と生徒の実態が遊離していることが考えられる。従って、小中学校ともに、新教育課程において、基礎的・基本的な知識や技能の習得とそれらを活用し、思考・判断・表現する力の育成が求められていることに鑑みながら、知識・技能の理解や定着、得た知識や技能を活用して課題を解決する力に係る評価及び評価に基づく指導法の改善を進めることが急務である。そのため、全教科において、情報の取り出し、理解、熟考、表現といったプロセスを意識しながら、言語活動を取り入れた単元構想に見直していく取組が必要である。